

講座名	ぜんのれきしのしよそ				
	禅の歴史の諸相				
担当講師	おおさわ ほうゆう	仏教学部 禅学科 准教授			
	大澤 邦由				
担当講師	たち りゅうし	仏教学部 禅学科 専任講師			
	館 隆志				
概要	<p>菩提達摩が中国に伝えたという禅の教えは、その時々において様々に受け止められ、受け継がれ、実践されてきました。その教えと歴史は実に多様性を含んでいます。</p> <p>本講座の前半（第1回、第2回）では中国において宋代以降、僧俗問わず幅広く読まれた『楞嚴経』の教えと禅宗とのつながりについて考えます。</p> <p>後半（第3回、第4回）では禅宗が日本に入ってきた頃の歴史、すなわち鎌倉時代の禅宗について取り上げます。</p>				
回数	全 4 回	受講料	4,000 円	配信期間	10月
講座レベル	入門	定員	800 名	講座形式	オンデマンド形式
第1回	タイトル	禅と『楞嚴経』入門			
	担当講師	大澤 邦由 ( 仏教学部 禅学科 准教授 )			
	内容	『楞嚴経』とはどのような経典か、『楞嚴経』はどのような教えを説くのか、なぜ禅と『楞嚴経』は親和性が高いのか、なぜいま『楞嚴経』は読まれないのか。 以上のようなテーマを基本として、『楞嚴経』の概要、および禅宗と『楞嚴経』との関係についてお話しします。			
配信期間	10月 1日 (土) ~ 10月 14日 (金)				
第2回	タイトル	『楞嚴経』の教えとその影響			
	担当講師	大澤 邦由 ( 仏教学部 禅学科 准教授 )			
	内容	『楞嚴経』は中国では僧俗問わず、幅広く受容され、禅宗にも影響を与えてきました。 様々な教えが説かれる『楞嚴経』の中で、特に「さとり」への方法を説く「二十五円通」や、有名な「云何忽生山河大地」などの経文を例にとり、その教えや影響についてご紹介いたします。			
配信期間	10月 8日 (土) ~ 10月 21日 (金)				
第3回	タイトル	鎌倉時代の禅宗① 一道元禅師と栄西禅師			
	担当講師	館 隆志 ( 仏教学部 禅学科 専任講師 )			
	内容	禅宗が日本に入ってきた頃の歴史、すなわち鎌倉時代の禅宗について考えます。 特に、道元禅師と栄西禅師という、それぞれ曹洞宗や臨済宗を代表する2人の高僧の関係性に焦点をあてつつ、その具体的な参学などを諸史料の読解を通して学びます。さらに、その関係性を踏まえた上で、鎌倉時代の禅宗の広がりや当時の仏教界の様子などについて考えます。			
配信期間	10月 15日 (土) ~ 10月 28日 (金)				
第4回	タイトル	鎌倉時代の禅宗② 一達磨宗について			
	担当講師	館 隆志 ( 仏教学部 禅学科 専任講師 )			
	内容	禅宗が日本に入ってきた頃の歴史、すなわち鎌倉時代の禅宗について考えます。 日本に禅宗が入ってきたころ、達磨宗という禅宗の一派が存在しました。この派の祖、大日房能忍は栄西と対立していたようですが、二祖の仏地房覺晏の門弟たちは、集団で道元に参じ、初期の道元僧団で中心的な役割を担いました。この謎の宗派、達磨宗について紹介いたします。			
配信期間	10月 22日 (土) ~ 11月 4日 (金)				
参考文献	とくになし				
受講にあたっての留意点	難しそうなテーマですが、基礎からわかりやすくご説明するよう心がけます。				